



保健・医療・福祉・生涯学習の連携

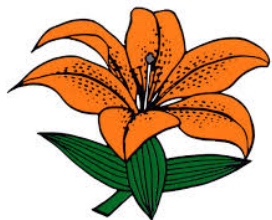
地域生活応援システム

地域コミュニティによる健康安心づくり

市民生活部 地域づくり推進課

1 釜石市の概要

人 口：33,744人（H31.2月末現在）
男 性：16,016人
女 性：17,728人
世帯数：16,509世帯
65歳以上：13,016人（38.％）
面 積：440.34km²



鉄と魚のまち

- 近代製鉄発祥の地
- 三陸漁場の中心港

2 計画策定の背景

地域の現状・課題

- ①人口減少・少子高齢化
- ②家族の支援力・地域で支え合う力の低下
→子育てに対する不安、高齢者の生きがいがない など
- ③県立釜石病院・市民病院の統合
→保健福祉の充実が必要

方向性

- ①保健・医療・福祉サービスを総合的に調整する機能が必要
- ②タテワリ的な業務から、地域の状況に合わせた業務を行う仕組みづくりが必要
- ③健康づくり・地域の支え合いには、地域づくりを進める生涯学習の取り組みが必要

3 計画策定の経過①

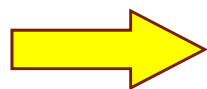
取り組み

【平成17年度】

- ①庁内外での協議・説明 → 協議会の設置、市政懇談会、講演会の開催
- ②かまいし健康ルネサンス構想（地域再生計画）の認定
→ 保健・医療・福祉・生涯学習の連携強化、保健福祉センターの整備

【平成18年度】

- ①モデル事業（唐丹地区）
→ 組織体制の検討・協働の有無（健康まちづくり検討会、アンケート調査）
- ②健康まちづくり検討会 → 地域の理想像、課題、役割分担のとりまとめ
- ③健康安心まちづくりフォーラム → 検討会での提言のとりまとめ
- ④アンケート調査 → 保健・医療・福祉・生涯学習・子育てなどの意識調査
- ⑤講演会、懇談会



地域生活応援システム基本計画策定

4 計画策定の経過②

施 策

保健・医療・福祉・生涯学習の連携を強化

○生活応援センターの設置

- ・平成19年4月より6地区でスタート
- ・保健師などの職員が地域に常駐
- ・保健・福祉・公民館事業・行政窓口業務を一体的に実施

※平成22年度からは新たに2地区に生活応援センターを設置し、合計8地区にセンターが設置されている。



5 地域生活応援システムのイメージ①

地域・住民

(乳幼児から高齢者までを対象)

心と体の健康度に応じた健康づくり

- 健康的な生活習慣づくり
- 病気の早期発見・対応
- 病気や障害のある人の健康づくり

生活応援センター

(市内8ヶ所)

保健師などの職員が常駐

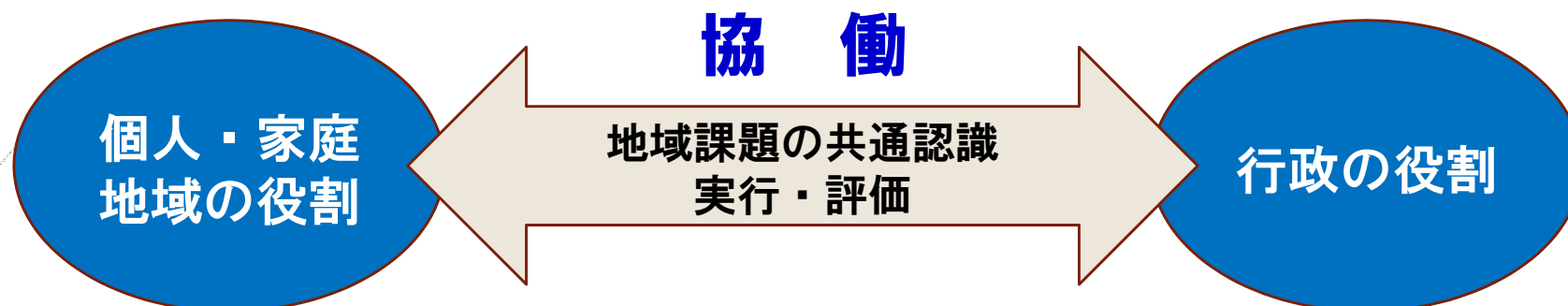
地域で支え合う力の育成

- 地域ネットワークづくり
- リーダーづくり
- ボランティアの育成

個別サービスの充実

- 訪問活動の強化
- 相談・指導の充実
- 情報・学習機会の提供

6 地域生活応援システムのイメージ②



生活応援センターのサポート体制
＊4分野の連携強化・サービス調整＊

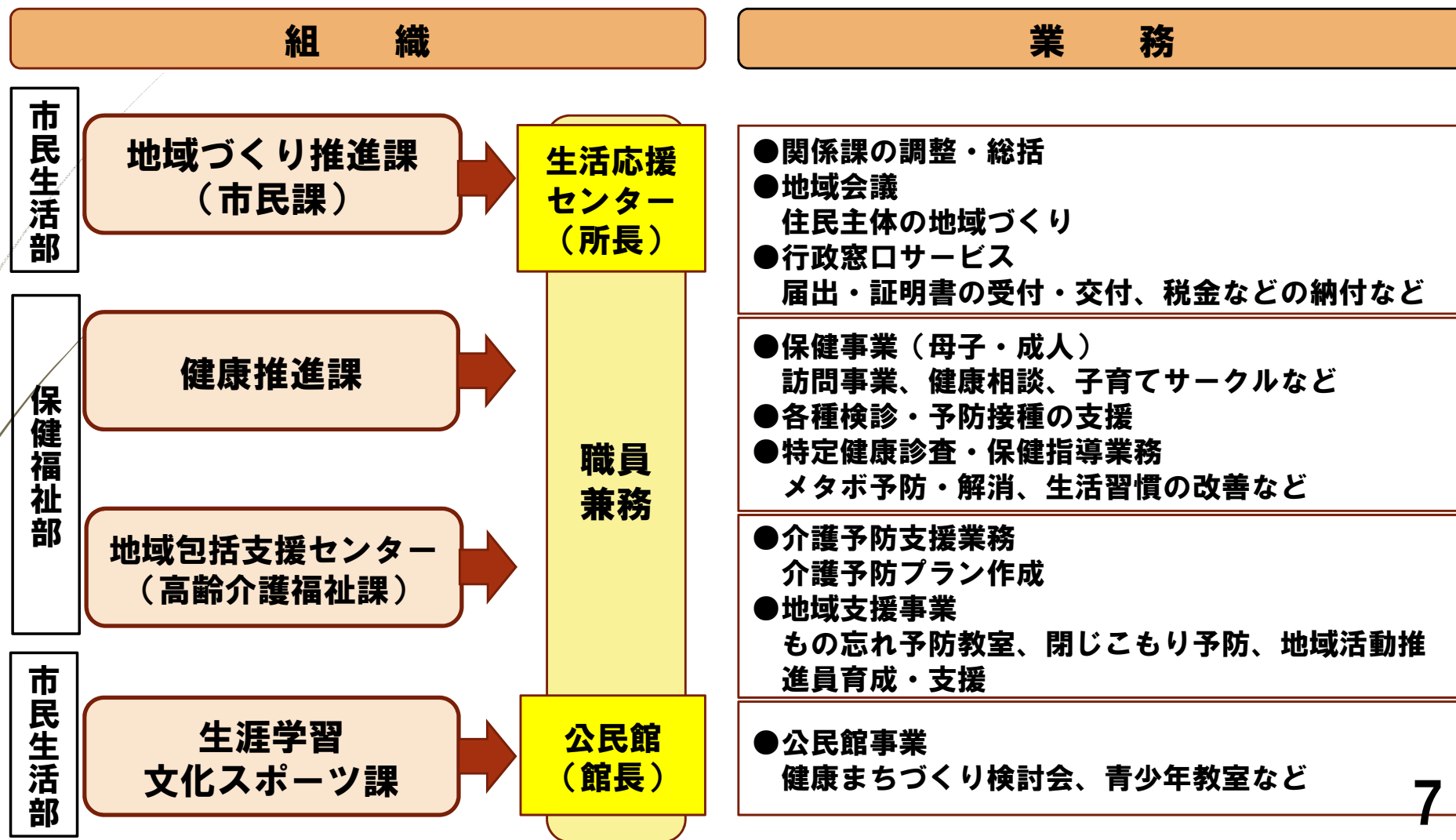
保 健

医 療

福 祉

生 涯
学 習

7 生活応援センターの組織・業務



8 生活応援センターの組織体制

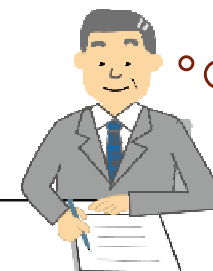
保健福祉業務

公民館事業

証明書等交付業務
(釜石地区生活応援センターを除く)

地域会議業務

被災者支援



所 長

センター業務
を統括



保健師



支援員



事務職

9 生活応援センターの職員配置

H31.4.1現在

センター	所 長	事務職	保健師	包 括 保健師	臨時 非常勤	合 計
釜石	1名	1名	1名		1名	4名
平田	1名	2名	1名		2名	6名
中妻	1名	1名	1名		2名	5名
小佐野	1名	2名	1名	1名	1名	6名
甲子	1名	1名	(非常勤) 1名	1名	2名	6名
鵜住居	1名	2名	1名	1名	2名	6名
栗橋	1名	1名	1名		1名	4名
唐丹	1名	1名	1名		2名	5名
合計	8名	11名	7名	3名	13名	42名

10 生活応援センター配置図



11 健康まちづくり検討会（H18.9月～H19.9月）

「健康で安心して暮らせるまち」を実現するために

幼児から高齢者の部会による話し合い

- 地域のあるべき姿を話し合う
- 実現に向けた課題・問題を発見する
- 課題解決に向けた提言を行う
- 提言の具体策を考える
- 具体策の役割分担を考える

全 体 会

- 期 間 H18.9月～10月（4回開催）
- 会 場 市民文化会館
- 参加人数 458名

各地区生活応援センター

- 期 間 H19.2月～9月（26回開催）
- 会 場 生活応援センター（5ヶ所）
- 参加人数 1,149名

地域生活応援システム基本計画

- 地域のコミュニケーションづくり（世代間交流、声がけ運動ほか）
- 子ども・高齢者の見守り、体制づくり

地域健康安心まちづくりプラン

役割分担

【生活応援センター】

- 場の提供
- 交流のきっかけづくり
- 情報発信
- 専門的知識・経費支援の提供

【個 人】

- 積極的な参加
- 参加の呼びかけ

【地 域】

- 事業の企画運営
- 協力者の組織化

12 健康まちづくり検討会（H18.9月～H19.9月）

「健康で安心して暮らせる
まち」を実現するために



健康まちづくり検討会（全体会）



釜石地区



甲子地区



唐丹地区



鵜住居地区



栗橋地区



小佐野地区

13 健康安心まちづくりフォーラム (H18~H19)

各センターの活動発表と交流



14 生活応援センターの活動と目指す効果

①病気の早期発見・予防を目指す保健活動

→ 地域で安心して暮らすことができる

②きめの細かい訪問活動

→ 地域・住民に密着したサービスができる

③生活習慣の改善指導

→ みずから健康を守る意識を高める

④公民館活動による地域づくり

→ みずから地域・家庭を支える力が生まれる

15 生活応援センターの事業



健康づくり教室



調理教室



健康相談



公民館事業
(世代間交流事業)



子育てサークル活動



ウォーキング教室

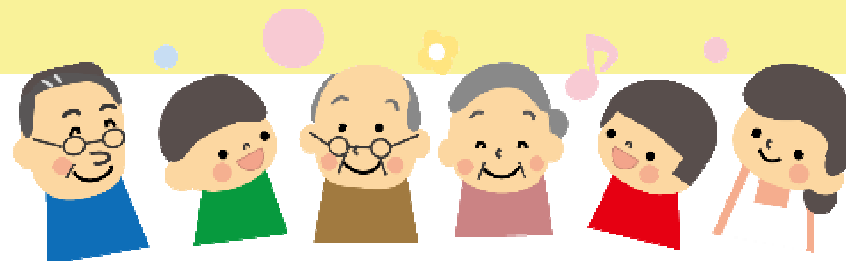
16 医療と生活応援センターの連携構築例

- ①健康相談（栄養指導）が必要な患者の診療情報について、医療機関が生活応援センターに提供する。
- ②各地域の生活応援センターで患者を支援
 - 栄養士：食事指導（健康相談会）
 - 保健師：運動指導（公民館事業）
- ③相談内容・支援内容を医療機関と生活応援センターで情報を共有する。



17 生活応援センター職員が感じる事業効果

- ① 地域を身近に感じ、地域とのつながりができる。
- ② 地域要望がわかり、即時に対応できる。
- ③ 課題の共通認識とその解決に向けた取り組みがチームでできる。
- ④ 事業を一体的に実施するメリットがある。
→ 健康づくり、訪問、公民館活動、健康診断
- ⑤ 仕事の充実感





健康で安心して暮らせる まちづくりのために



＊役割を明確にした協働の取り組み＊

住 民

- まちづくりの主役は住民
- 自らの健康は自ら守る。
- 地域に積極的に出かけ、身近にできる取り組みから始める。

応援センター

- 地域の現状を住民と共有し、情報を公開する。
- 住民主体取り組むきっかけづくり・組織づくり・基盤づくり

力を合わせて
やってみよう！

保健・医療・福祉・生涯学習の連携

地域生活応援システム

地域コミュニティによる健康安心づくり



END